

琳派展X I コンチェルト 花の協奏曲

開催要綱

1. 展覧会名称 琳派展X I「花の^{コンチェルト}協奏曲」
2. 主催 細見美術館 京都新聞社
3. 後援 京都府教育委員会 京都市教育委員会
京都市内博物館施設連絡協議会 NHK京都放送局
4. 会期 平成20年11月8日(土)～平成21年2月8日(日)
5. 休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜)
[年末年始]12月24日～1月1日
6. 開館時間 午前10時～午後6時
7. 入館料 一般1000円(800円) 学生800円(600円)
※()内は20名以上の団体料金
8. 会場 細見美術館
京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
電話075-752-5555

9. 開催趣旨

11回目を迎える毎秋恒例の琳派展。本年は300年以上に及ぶ琳派の歴史において、常に描き続けられてきた草花図に焦点を当てます。

四季の移ろいに伴い豊かに花が咲き巡る日本では、古くからさまざまな草花を和歌に詠み、季節を示す象徴と位置づけ親しんできました。一方絵画においては中世以降、四季花鳥図や月次花鳥図などが描かれてきましたが、多様な植物を積極的に取り上げ、その特性を存分に描き表わしたのは、近世の俵屋宗達を基点とする琳派の画家たちです。

本展では宗達派の金銀泥絵をはじめ、「伊年」印の草花図、光琳派の華麗な作品、芳中や江戸琳派など後期琳派の花鳥図等、多数の作品を展示。琳派の花々が奏でる美しい旋律により、新たな琳派の魅力を紹介します。

I

四季草花図の世界

春夏秋冬と、四季をめぐる草花を一作品に描き連ねる「四季草花図屏風」。宗達派(「伊年」の商標を用いた)では金地に数十種の草花を描き、やまと絵の伝統的な四季草花図様式を一新しました。身近な草花から珍しい植物まで等しく観察眼をめぐらし、琳派特有の優美で豪華な作風を展開します。



四季草花流水図屏風 池田孤邨



四季草花図屏風 「伊年」印

II

春夏の花の章

早梅に始まり、若草、桜、藤と春爛漫の花景色へ。夏を彩る燕子花や立葵は、琳派が得意とした清廉なモチーフです。さわやかな色彩、優美な表現が多く見出される季節です。



立葵図 深江芦舟



白梅小禽図屏風 中村芳中

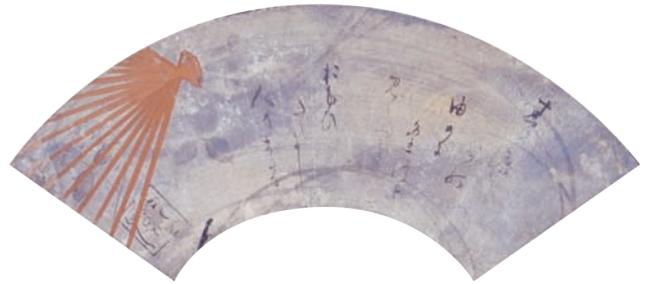
III

秋冬の花の章

秋草の美こそ琳派の真骨頂。薄、萩、菊…千草が秋風になびくさまは、旋律を奏でるかのようです。冬の絵では、雪に藪柑子の赤い実が映えるさまなどが、琳派好みの取り合わせです。



雪中檜に小禽図 酒井抱一



萩薄下絵和歌書扇面 俵屋宗達/下絵
本阿弥光悦/書



槇に秋草図屏風 酒井抱一

IV

草花図小曲集

香包や扇面、団扇など、小画面にも琳派の美意識は存分に発揮されています。十二月を象徴する草花を月ごとに描き、十二図一組として仕立てた画帖はまさに花暦。さまざまな画家による月次の草花図画帖の協演もみどころです。



秋草図団扇 「成乙」印



柳図香包 尾形光琳



月次花鳥画帖より
十一月/十二月/一月/二月 鈴木其一